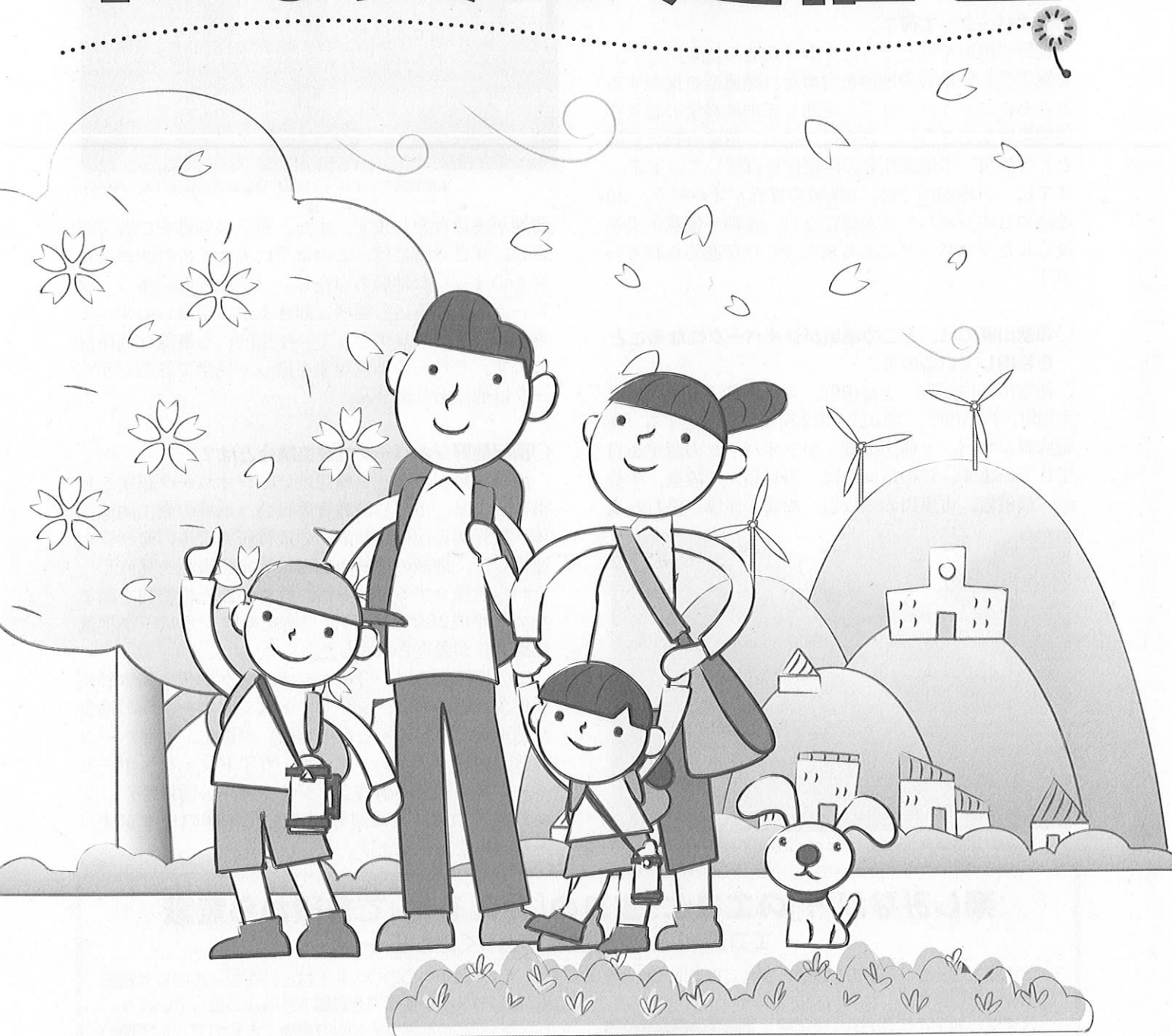


# わおん通信

2013  
春号  
(第8号)



## CONTENTS

2面 ■ 南紀熊野ジオパーク推進協議会が設立

3面 ■ 県センターのとりくみ

4面 ■ 全国各地のとりくみに学ぶ

低炭素杯 2013

5面 ■ 県内市町村のとりくみ

6面 ■ 各協議会や推進員のとりくみ

7面 ■ 推進員さんびよっこり訪問記④

8面 ■ INFORMATION



# 南紀熊野ジオパーク推進協議会が設立！

～目指せ！ジオパーク認定～

## ○ジオパークって何？

地質や地形を見どころとする「大地の公園」です。貴重で美しい地質や地形を含めた自然遺産を保全するとともに、ジオツーリズムを通じて地球科学の普及や環境教育などを行い、さらにこれらの遺産を観光資源として活用して地域社会の活性化を目指しています。すでに、日本国内では、5地域の世界ジオパーク、20地域の日本ジオパークが認定され、各地で創意工夫を凝らしたジオパークによるまちづくりが進められています。

## ○和歌山県では、どこの地域がジオパークになることを目指しているの？

新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町をエリアとする「南紀熊野ジオパーク構想地域」がジオパークの認定を目指しています。この地域には、円月島、三段壁、千畳敷、橋杭岩、古座川の一枚岩、那智の滝等、優れた景



▲すさみ町口和深黒崎の大褶曲（日本の地質構造100選の一つ）



▲南紀熊野ジオパーク推進協議会設立総会及び第1回総会

勝地が多数存在します。また、左下の写真をご覧ください。すさみ町には、このように大きく折れ曲がったダイナミックな地層も存在し、「地球表面を覆う“プレート”が沈み込む場所で起きる地質現象」のすべてを体感できるエリアとして、学術的にも貴重な場所なのです。これらの地質現象を揃って見学できるジオパークは他にありません。

## ○南紀熊野ジオパーク推進協議会とは？

南紀熊野ジオパーク構想地域のジオパーク認定を目指して、県、市町村、教育委員会、地域の商工関係団体、観光関係団体、和歌山の地質研究者等の産学官が連携して、地域の地質や地形に関する資源を見直し、それらを保全するとともに、教育や観光の振興を図るため、平成25年2月6日に「南紀熊野ジオパーク推進協議会」が設立されました。

この協議会では、今後、ジオパーク構想の基本計画や保全計画の作成、ジオサイト（ジオパーク内の地質や地形等を見どころとなる場所）の選定、ジオパークの普及啓発（チラシ・マップ・ガイドブック・ホームページ等の作成や講演会・ジオツアーの開催等）、ジオガイドの養成に取組み、平成26年度の日本ジオパーク認定を目指します。

## 「楽しみながら」のエコと、エコの「見える化」で普段から意識

—エコチャレンジ応募者のとりくみから—

今年度エコチャレ応募の中から、参考になる取り組みをご紹介します。

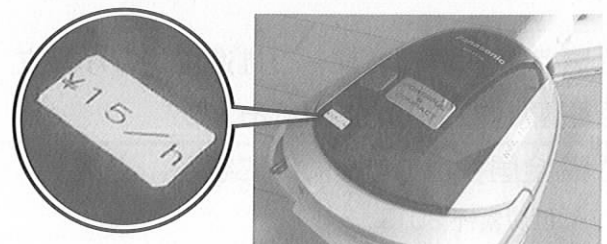
まずは、新宮市の西さん。6年前からエコな暮らしを楽しみながら実践し、年々エコ度が上がっています。今回は集会所を兼ねている大広間の照明をLED化。各部屋にある延長タップは「スイッチ付き」が当たり前で、FAXの電源も通常はオフに。信号音を聞いてからスイッチを入れて受信する徹底ぶり。窓など開口部のカーテンは断熱性のものを使い、暖房費節約に効果を発揮しているとのことでした。



和歌山市の阪口さんは、和歌山市が貸し出しているエコワットを使って、家中の家電製品をチェック。その計測の

結果（「1分間で〇〇ワット」など）をシールにして電器具に貼り付け、消費電力を意識できるようにしています。「こうしておくと家族みんなが意識できるので、ムダ使いを防ぐ効果がある」そうです。

見えてきたキーワードは「見える化」。普段から意識することで、自然に取り組めるのです。



# 炎がつなぐ人とひと

—薪づくり体験・「薪で地域を元気に」ワークショップ—

自らの手で原木から薪を作ってみる。1月20日に田辺市、1月27日に橋本市で、薪づくり体験交流会とワークショップが行われました。今回、薪ストーブを使っている方が多く参加され、みなさんイキイキとした表情でイベントがスタートしました。

「実は、斧もチェーンソーも初めてなんです」という方や、このくらいは朝飯前とばかりに、どんどん伐ったり割ったりしていく方などさまざま。一緒に参加した子ども達も、重い斧を上手に使って手伝っていました。

汗をかいた後は「薪で地域を元気に」などをテーマにワークショップを実施しました。ストーブ使用者からは、薪資材の提供者を見つける苦労や、薪でつながるよろこび、薪づくりの大変さやおもしろさ、そして、



電気や灯油などの暖房機器とはまったく違う「暖かさ」を得られる満足感など、生の声が聞けました。薪資材を提供できる方の側からは、梅の剪定木（25～30年で更新）が毎年たくさん出ることや、炭づくりの際に、山で余分に伐り出して提供できそうであることなど、具体的な意見も出ました。また、森林組合の方からは、「持続的な薪の供給には、まず山の整備が不可欠である」という意見、里山保全にとりくんでいる方からは、「市民がもっと薪を使うことで里山に関われたらいい」などの意見を聞くことができました。

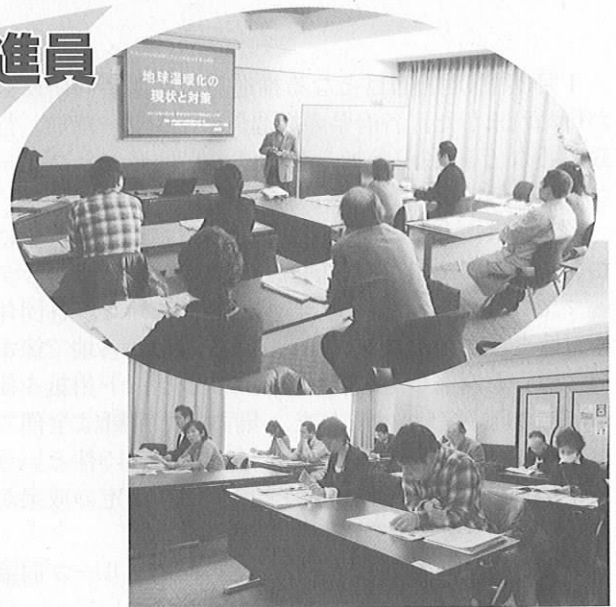
ますます注目される、バイオマスエネルギー。今回の取り組みで、「薪」が「人とひとをつないでいける」こと、持続可能な地域社会づくりの小さくない「きっかけ」になることなどを実感できました。



## 第9期 地球温暖化防止活動推進員養成講座を実施

3月2日（土）和歌山ビッグ愛で、推進員の養成講座が実施されました。第9期となる今回は、9名の受講生が参加。県の環境生活総務課担当者から推進員についての説明があり、続いて温暖化防止活動推進センター長より温暖化の現状と対策についての講義がありました。世界の情勢とこれからの対策について、そして代替手段となる再生可能エネルギーの種類と普及状況の説明。続いて、県センター事務局長より、「和歌山からはじめる温暖化対策」の講義があり、県内の推進員の活動を紹介。個人でも積極的にエコな取り組みを実践されている方、学校や地域での出前学習会、グループで傘をリサイクルしている様子や、料理講習、イベント啓発など、楽しみながら実践できる具体的なヒントがありました。

受講生からは「圧巻の講座でしたがあっという間の



時間でした。正しいことを知ることから行動に結び付けられると思いました。先輩たちに負けないでがんばります」と熱く感想を語ってくれました。



## 低炭素杯 2013

## グランプリ

# 全国からファイナリスト達が集結、高校生が2年連続受賞



2月16日、17日、東京ビッグサイトで行われた低炭素杯2013。学校、団体、企業など40団体がプレゼンテーションを行いました。今回、環境大臣賞グランプリに輝いたのは「栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班」。昨年に引き続き2年連続でグランプリを獲得。伝統地域産業である麻を新たな資源として活用するとりくみを紹介。木材の約10倍の断熱効果が期待できるという麻殻をチップ化、建築断熱材として利

用し、住宅の省エネ化を実現しました。また、麻の吸水力の高さを生かして「里山どうぶつロープ」(麻ロープに唐辛子抽出液を染み込ませたもので、強い刺激臭によって畑の獣害対策に活用できる)を開発しました。

金賞を受賞した岐阜県立恵那高等学校は、栗加工品づくりで出る年間750トンもの栗殻を発酵させ、畑の雑草防止や菌床の材料にするアイデアを発表。今大会では、学生を中心とした取り組みが際立っていました。

二日目に行われた特別シンポジウムでは、パネリスト5名により、環境活動の取り組み成功の裏で、世代間のギャップをどうつないでいるかなどの意見が交わされました。若い世代からは「年配者の意見に耳を傾け、求めていることを聞き、地域に少しでも新しい風を持ち込みつつ関心を持ってもらう。」「自分たちのおこしたいアクションに対し、先人の知恵が必要であることを伝え、場に参加してもらうきっかけとする」。年配者側からは、「若い親世代が子どものために動きたい時間をあらかじめ聞いておき、日程を調整して親子で参加してもらう」というもの。また「成果に対して、ほめる・ほめられる雰囲気づくり」、「失敗するかもしれないが、まかせてみようという年配世代のこころ」と、地域コミュニティづくりに欠かせないヒントを共有できるシンポジウムでした。

## ひとりでも多くの人を巻き込みたい

### 第10回推進員関西合同研修会 開催

1月31日、10回目となる推進員の関西合同研修会が行われました。各府県の推進員、センター職員、行政職員など52名が参加。各府県の事例発表とグループ討議を行いました。

滋賀県は「おうみ節電アクションプロジェクト」について発表。2年目の今回は、節電の定着化というテーマでスタート。県内の推進員80名を軸に、各団体や行政と連携したコンソーシアムを展開。各地で節電セミナーを開催しながら、専用のアンケート用紙を使って参加を呼びかけました。集まった用紙は全部で4229件。推進員が依頼した分だけでも2013件という結果に。総電力使用量は前年比0.93%。一定の成果があったとのことでした。

午後からは、6つのテーブルに分かれグループ討論を行いました。テーマは「啓発ツールについて」。日頃から活動する推進員の工夫や思いなど意見を出し合い、全員で共有しようというものでした。チームごとに発表があり、エコな取り組みを見える化することや、



つながりづくりといった共通のキーワードが目立ちました。参加者は、多くの方に意識を持ってもらうことの難しさを感じており、地域の人々を上手に巻き込んでいく仕組みづくりこそが、これからの啓発ツールとして重要であることを学びました。



# 全国初の「ミニソーラー事業」

## 紀美野町の遊休施設でモデル事業

今年1月8日、和歌山県は、再生可能エネルギーの売電収入を地域振興に活用するため、新たなソーラー事業の仕組みについて、エナジーバンクジャパン株式会社（EBJ～大阪ガスの100%子会社で新エネルギー事業）と協議を重ね、全国初の「ミニソーラー事業」に取り組むことを発表しました。

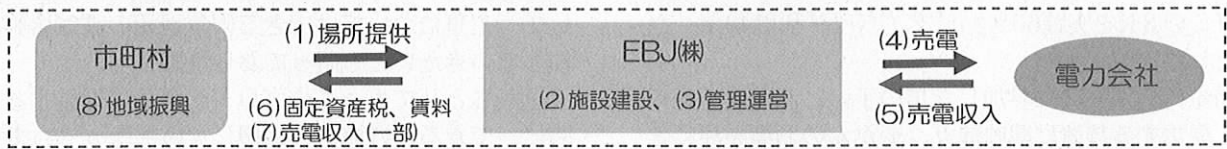
県が過疎地域への導入を検討した結果、このたび紀美野町とEBJが連携し、モデル事業として紀美野町の遊休施設に小規模の太陽光発電システムを設置することになりました。EBJは4月に着工し7月の操業開始を予定しています。



紀美野町に設けるミニソーラーは、約1600m<sup>2</sup>の敷地に容量110kWの太陽光発電システムを設置する計画で、推定年間発電量は、約30世帯の年間電力消費量に相当する約11万kWhです。

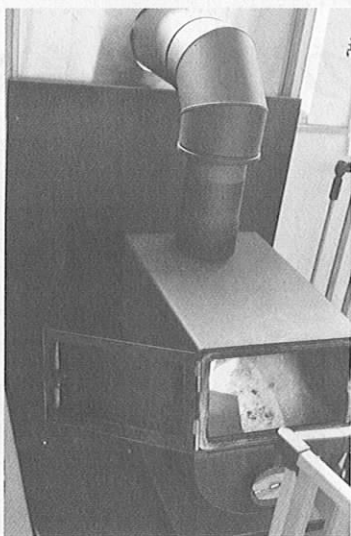
紀美野町企画管財課の担当者は、「EBJから支払われる売電収益（年間約40万円＝20年間で約800万円）を、ふれあいマラソンの助成やコミュニティーバス運行など地域振興に役立てたい」と語っています。

このミニソーラー事業は、再生可能エネルギーの普及促進、「売電収益」を地域振興に活用、災害時や計画停電時における地域の電力確保、廃校舎・運動場や企業用地などの遊休施設の有効利用を目的とし、特徴として、メガソーラーではなく小さな面積での発電が可能で、設備や管理・運営費用はEBJが負担すること、売電収益（＝売電収入－必要費用）の一部と借地料・固定資産税が市町村に支払われることなどです。地域振興へのEBJの積極的な協力と理解で実現しました。



## かつらぎ町 庁舎内に薪ストーブをモデル設置

2月18日、かつらぎ町の庁舎内、かつらフルーツ王国振興公社のスペースに、薪ストーブがモデル設置（展示も兼ねて）されました。鉄筋構造の庁舎へ設置する上で大変苦労されたようですが、環境・防災の両面で、町民への普及拡大が今後期待されます。



地元、町内には活用されていない森林資源や、柿・桃、梨などの剪定木（未利用木質バイオマス）が豊富にあります。薪としてエネルギー活用することは経済的にも環境面でも有効です。町は「何とかこれらの資源を地元で活用



するシステムをつくりたい」「作業所や一般家庭に薪ストーブが普及すれば需要が拡大できる」と模索しており、その一環として今回薪ストーブを導入しました。

お隣の高野町では、来年度から「和歌山県地域グリーンニューデール基金事業」を活用し、すべての小中学校の体育館などに薪ストーブを設置する予定です。「この導入を契機に町内への普及がすすめば」と町担当者は語っています。



## 「ストップ・温暖化」アンケート実施

— 岩出市第16回ふれあいまつり —



3月3日（日）、岩出市総合保健福祉センターで第16回ふれあいまつりが行われました。

3階メインロビーでは、「ストップ！温暖化」と題して、岩出市地球温暖化対策協議会の推進員と岩出市生活環境課による啓発コーナーを開設。人力による発電体験や、ゴミの減量や正しい出し方の展示をしました。合わせて「ストップ温暖化」のアンケートも行い193名が回答。上位には「省エネ家電を購入79%」「冷房28度、暖房20度を実施62%」など、普段から省エネを実践しているという回答が寄せられました。他に「ゴミの3Rを実践60%」「マイバッグ利用44%」などでした。

発電体験ブースに参加した男の子は、温度差を利用して発電する装置に興味津々。やかんのお湯を注ぐとプロペラがクルクルと回る様子をじっと見つめていました。

（岩出市地球温暖化対策協議会 松下靖彦）

## 「自然エネルギーで地域活性化」

2月15日（金）夜、元環境エネルギーコンサルタントの仁木佳男氏を招き、学習会を行いました。

仁木氏は現在、和歌山市の大手製鉄会社グループに属するマネジメント会社に勤務されていますが、その傍ら、生まれ育った串本町の実家やその遊休地を利用して、当面、40kWのミニソーラー発電をこの春から約1千万円の私費を投じて着工されるそうです。将来的には、プロジェクトに賛同する方々の理解や協力を得て、NPOなどの組織をたちあげ、共同出資等によって750kW程度に拡大したいとの考えを持たれています。

串本は全国でも有数の日射量の多い地域で、活用できる土地家屋もあります。仁木氏は、「環境エネルギーのコンサルタントとしてこうした事業を人に勧めてきたが、果たして自分がやれるのだろうか」との思いから、また、「少しでも地域経済や雇用に貢献したい」との考えから、今回の事業を計画されたそうです。従って、工事についてはできる限り地元の電気店等に発注していきたいとも語っておられました。

私たちとしても、このプロジェクトに期待するとともに、できるだけ協力・応援したいと思っています。

（紀南地域地球温暖化対策協議会 松下精二）



## 「食」を通じて地域の関心を高めよう

今年で5回目となる「紀の川市食育フェア」。このイベントは地元の食材を通じて地域に関心を持ってもらおうとはじまったものです。屋外会場では、農産物や加工品販売のほか、もちつき体験、紀の川市吹奏楽部の演奏などさまざまな催しが行われました。

屋内会場では、子どもたちが、説明を受けながらチヂミを焼く料理体験コーナーやJA紀の里による農業体験イベントの様子も展示していました。

そして環境ブースでは、エコネットきのかわ（紀の川市地球温暖化防止対策協議会）による温暖化についての展示に加え、クイズに答えて記念品がもらえるイベントを行いました。内容は食育&環境に関するもので、大人向けと子ども向けとがあります。「主要な米の輸入国に転じた国は?」「日本のエネルギー自給率は?」など関心をもってもらうきっかけになる出題ば



かり。難しいところは推進員さんに質問。参加した親子は頭をひねりながらも一緒に取り組む姿がありました。（紀の川市地球温暖化対策協議会 岸本憲一）

## 推進員さん「びわこ」訪問記④

湯浅町

清水 友さん

湯浅町にお住まいの清水友さんは推進員第一期生。いまは陽花(はるか)ちゃん4才と太朗君2才の子育て真っ最中のお母さんです。

ミッション系の高校で学んだ清水さん、宗教の時間などで「人を愛するとはどういうことか」などを学ぶうち、現代世界がはらむ様々な問題に気づいたのが、環境問題に関心を持つきっかけでした。

大学に進学して卒業後は地元のスーパーチェーンに就職。面接では日々大量に出る残飯やプラスチックトレイの回収について尋ね、それに役立ちたいとも考えていましたが、採用後は精肉部門に配属されて忙殺され環境どころではなかったとか。しかし間もなくゴミ減量が会社に義務づけられることとなって、時代の流れを実感したそうです。

世界でのH1V(エイズ)の実情を知りたいと、会社を退職して世界一周のピースボートに乗ったのが26才のとき。その船上で開かれた地球温暖化問題のワークショップに参加、講師として乗船していた環境活動家の田中優さんの話などに触発され、「ゴミの分別とか今の生活で出来るところからやっていこう」「自分が暮らす地域で何が出来るか見つめ直そう」と考えて帰宅しましたが、「自分で出来ることの範囲から、それを広げていく方法かがわからない」「1人では何も出来ないと感じたけど、とって、こんなことに関心のある知り合いもいませんでした」

と、悩んでいるときに、家業の関係で応募した県の環境関連事業のプレゼンで担当課の職員から「和歌山環境ネットワーク」(当時)を紹介されて早速入会します。同ネットが全県の環境団体などに呼びかけて催した2年連続の環境フォーラムのスタッフとして活動しているときに開催された養成講座に他の会員とともに参加し、第一期の推進員として委嘱されました。「仲間がこんなに大勢いるって心強い！」

それからは、その翌年県地球温暖化防止活動推進センターに指定された「わかやま環境ネットワーク」の一員として推進員を養成する側に回り、2期生、3期生の養成研修の企画運営に積極的に携わってきました。が、その活動で満足していたわけではありません。

「こんな活動が実際に温暖化対策になってるんかな…って思いもあって」「それより、ひとりでも話しに行く方が…とか、いやいやまずこれから…とか、なんだか行ったり来たりしてる感じでした」

その後、結婚して二人の子どもにも恵まれ、生活はすっかり変わりました。さすがに独り身の時のように自由には行動できず、悩むこともあります。居住地で活動する「紀中温暖化対策推進員の会」などが企画する近所でのイベントには、できるだけ時間を作って参加するようにしています。

「親になって今までとは違った形で知り合う人が増えました」「自分は仕事もあるので、子育てで専業の人たちとは時間が合わないんですけど、そんな中でどんなことができるか、いまは色々考える時期かなあ…とも思ってる」という清水さん。大きな声をあげて身の回りにまわりつく子どもたちをあやしめながら、「この子たちがもっと大きくなって、いつか一緒に勉強したり活動したり出来る日を楽しみにしてるんですよ」と、とびきりの笑顔で結んでくださいました。



## なるほど ガ・ワード

### STOP温暖化・焦点の言葉④

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

#### 【太陽活動の低下と地球温暖化】

国立天文台は2月1日、衛星「ひので」による観測結果から、太陽で南北両極の磁場が揃ってプラスとなる珍しい現象が起きているほか、太陽活動が過去100年で最低の水準にあると発表、これを受けて、地球の寒冷化を心配する声が出ています。

太陽活動の強弱が地球の気温に影響を及ぼすことは確

かです。しかし、現在の間氷期から氷河期に至るようなレベルでの気温変化は2~10万年スケールでのことであり、短期的に見た場合の影響は、化石燃料の使用など人為的に排出された温室効果ガスの影響に比べれば非常に小さく、現在の地球温暖化傾向を打ち消したり、逆に大きく増幅したりするほどではないことがわかっています。

また、今回観測された太陽活動の低下が17世紀頃の寒冷化を招いたマウンダー極小期に類似しているとの指摘もあります。今後慎重な観測が必要で、同様の寒冷化に繋がる可能性も否定できませんが、そのマウンダー極小期でも気温低下は世界平均で0.1~0.2度と考えられており、やはり地球温暖化を押し戻すほどの影響はなさそうです。



## ● 上富田町生馬で植樹

17日と4月14日、上富田町生馬で植樹をする。一般参加を呼び掛けている。  
両日も午前9時に同町役場に集合する。作業は午前中に終了予定。

開催日時 2013年4月14日(日) 9:00 ~

開催場所 (西牟婁郡)

〈上富田町役場集合〉

参加費用 無料

申込み方法 [事前申込み必要]

開催日の4日前までに事務局の田中正彦さん  
(昼間0739・22・7731、夜間0739・49・0410)へ

主催者 いちいがしの会

問合せ先 田中さん(0739・49・0410)

## ● 「エコネット・カフェ 第2回 環境ボランティアとしてのキャリアデザイン」

環境のこと、活動のこと、将来のこと。  
お茶とお菓子をいただきながら、気軽な気持ちで話しませんか。  
毎月おおよそ一回、2時間かぎりの環境井戸端会議にどうぞ参加ください。  
イスタンブールより一時帰国の仲津副理事長が案内人です。

【テーマ】環境ボランティアとしてのキャリアデザイン

【講師】中島 秀和(エコネット近畿 理事)

【日時】2013年4月4日(木) 19:00~21:00

【場所】エコネット近畿 事務所(大阪市北区天神橋2丁目北1-14)

【対象】どなたでも(環境に関心のある方)

【参加費】200円

【定員】15名(先着順)

【申込】E-mailまたはFAXにてお申込ください

↓詳しくはこちら↓

<http://www.econetkinki.org/blog130310100800.html>

## 2011年度「温室効果ガス排出量」(速報値)

# 総排出量13億700万トン(前年度比3.9%増加、基準年比3.6%増)

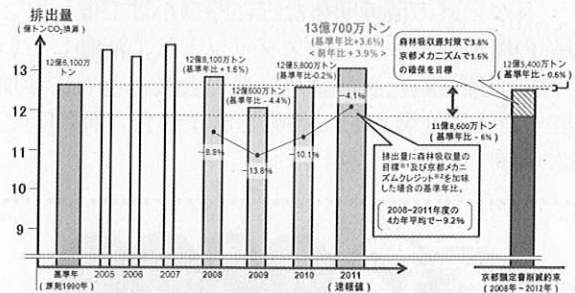
環境省は昨年12月5日、2011年度の温室効果ガスの総排出量(速報値)をまとめました(確定値は4月に出されます)。総排出量は13億700万で、前年比3.9%、1990年(基準年)比3.6%の増加。その要因として東日本大震災(東京電力福島第一原発事故)の影響などによる火力発電の増加によって、化石燃料の消費量が増加したことなどを挙げています。その結果、間接排出量で各部門の排出量をみると、業務・家庭部門で大幅に増加(表参照)となっています。

京都議定書で日本は1990年比-6%(2008年~2012年の5年間)が義務付けられています。図の

ように実排出量は直近4年間の平均は+0.2%となっていますが、森林吸収源対策で3.8%、京都メカニズム(政府と電力会社が外国から買いとる排出削減クレジット)で1.6%を毎年確保することを目標にしていますから、何とか義務を果たせそうな状況です。ただ、確実に広がる気候変動の現れから考えて、それでいいのか?という疑問も残る結果です。

### 我が国の温室効果ガス排出量

2011年度における我が国の排出量は、基準年比+3.6%、前年度比+3.9%  
森林吸収量の目標<sup>※1</sup>と京都メカニズムクレジット<sup>※2</sup>を加味すると、  
京都議定書第一約束期間の4カ年平均(2008~2011年度)で基準年比-9.2%



(図) 我が国の温室効果ガス排出量

(表) 各部門のエネルギー起源二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(電気・熱配分後)

	京都議定書の基準年(シェア)	2010年度(基準年比)	前年度からの変化率	2011年度(速報値)(基準年比)	(シェア)
合計	1,059 (100%)	1,123 (+6.1%)	→ <+4.4%>	1,173 (+10.7%)	[100%]
産業部門(工場等)	482 (45.5%)	421 (-12.6%)	→ <-0.2%>	420 (-12.8%)	[35.8%]
運輸部門(自動車等)	217 (20.5%)	232 (+7.8%)	→ <-0.8%>	230 (+5.8%)	[19.6%]
業務その他部門(商業・サービス事業所等)	164 (15.5%)	217 (+32.1%)	→ <+14.0%>	247 (+50.6%)	[21.1%]
家庭部門	127 (12.0%)	172 (+34.9%)	→ <+9.7%>	189 (+48.1%)	[16.1%]
エネルギー転換部門(発電所等)	67.9 (6.4%)	81.1 (+19.6%)	→ <+6.1%>	86.1 (+26.8%)	[7.3%]

(単位:百万t-CO<sub>2</sub>)

## 【発行】

## 和歌山県環境生活総務課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL:073-441-2690 FAX:073-433-3590  
mail:e0317001@pref.wakayama.lg.jp

## 【編集・お問い合わせ】

## 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

〒641-0014 和歌山市毛見996-2  
TEL:073-499-4734 FAX:073-499-4735  
mail:wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。